

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)1階】**

事業所番号	2870800964		
法人名	株式会社ジョイ		
事業所名	グループホーム ハッピージョイ		
所在地	兵庫県神戸市垂水区桃山台7丁目5番10号		
自己評価作成日	平成24年6月11日	評価結果市町村受理日	平成24年8月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2870800964&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2870800964&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階
訪問調査日	平成24年7月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

24時間対応の医療機関の協力を得て「最後のすみかとして可能な限り看取りまで行う」という理念の元に利用者にとって安心して最期まで暮らすことのできる施設を目指しています。
---

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年8月で開設9年目を迎え、様々な経験を蓄積し、終末期まで対応できる事業所としての体制が整ってきている。特に、医師との関係作りに尽力した成果として、現在3名の医師がそれぞれ月2回往診し、必要に応じて24時間対応の体制をとっている。職員も多くの看取りのケースを経験し、看取りまで行う事業所としての使命が認識されている。家族の看取りに対する理解も深まっている。また認知症へのアプローチとして、ドリルやパズルなどの学習療法を取り入れ、楽しみながら認知能力の向上を図っている。その他、音楽療法も行い、最近では入居者に顕著な変化が現れてきた。認知症への対応と、終の棲家としての役割を今後とも担われることを期待する。
--

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境のもとで心身の機能訓練を行う事により、可能な限り自立に向けての個別ケアを支援すると共に終末ケアまで受け入れる事を基本方針としている。	事業所の理念については、月1回の職員会議やことあるごとに口頭で話をしている。終末期までのケアを実践するという方針について、全職員での具体的な共有の記録は確認できなかった。	管理者はじめ事業所の理念について、職員全員へ伝える機会を設けて、記録を行い、その時参加できなかった職員へも伝える方法等を具体的にされることが望ましい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃に参加し、地域の方々から声を掛けて頂いたりして顔見知りになっている。運営推進会議へ定期的に自治会の方に参加して頂いている。 地域の中学校からのトライやるウィークも受け入れている。	地元の住民の方々への公園の清掃に、利用者と一緒に参加している。また、散歩のボランティアの方々には、毎週少しずつであるが散歩に同行していただいている。地域の一員としての活動として定着している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や電話等で、地域の方から認知症の方への対応について質問を受ける事があるが、認知症の専門施設として支援の方法等をその都度お答えしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員に出席して頂き、施設内の活動や取り組み等の報告、地域との関わり方、困っている事や要望等も議題に上げて相談、意見やアイデアを頂いている。	2か月に1回開催されている運営推進会議では、自治会長さんをはじめ地域の方々を含めた構成で確実に開催されており、事業所の活動内容や利用者の暮らしぶりなどについて伝えている。今後も更にメンバーの枠を広げて意見交換等もされ、サービス向上に活かしてほしい。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	垂水区グループホーム連絡会に参加し、連絡会全体としてはあるが区担当者や地域包括支援センターとの協力関係築くように現在話が進んでいる。	年4回開催されている連絡会に参加して、日ごろからの事業所の取り組みやサービスについて意見交換や協力関係がさらに良くなるような関係づくりを行い、連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定期的に研修を行っている。施設の方針で、日中は玄関のドアの施錠はしていない。身体拘束は可能な限りしないように積極的に取り組んでいる。	行事などで、一時的に玄関を施錠する時もあるが、日常的な施錠は行っていない。立ち上がりが見られる危険のある利用者には、ソファへ誘導し立ち上りまでに職員が対応できるようにしている。3月に職員研修行って、同意書により期間等も決めている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への対応、声掛け、言葉使いに日々気をつけるよう伝えている。虐待の研修や勉強会を定期的に行っている。	高齢者虐待についての職員研修行って、職員への虐待防止に努めている。また、穏やかな風土づくりにも気を配り、職員の心のケアについても主任、リーダーを中心に徹底している。研修記録が充実すれば、より良いケアにつながる。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度をしている方もおられ、職員の学ぶ場を設けている。(職員会議などでも取り上げ資料等で説明)	制度を利用されている利用者がおられることもあり、理解もあり、活用されている。家族やケースワーカー、また生活保護課なども必要に応じて連絡をとっている。また、職員の研修も場もつくり、業務に活かしている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容を充分説明し、納得して頂いている。	契約は、管理者が行っている。事業所へ来られた折に説明をすることが多いが、3時間ほどかけて丁寧に契約内容を説明するようにしている。わからないことは、質問しやすいようにして納得の上で、契約をしている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情や要望は積極的に受け入れている。運営推進会議の場でも自由に発言して頂いている。	意見箱を設置しているが、ほとんどは、来訪時に直接聞くことが多い。運営推進会議でも発言の機会を設けている。昼食時の食事介助の人数が少ないとの意見に対し、看護師ができるだけその時間にフォローするなど工夫している。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議等にも参加して頂き自由に発言されている。アンケートによる意見も尊重している。	管理者が職員会議や個別に職員の意見を聞くよう心がけている。ユニット数が多く、すぐに対応し難い案件もあるが、提案や意見に対して、誠実に対応しようとする姿勢がみられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士のチームプレーと意思疎通で向上心を高めている。それぞれが日々の勉強だと思ってコミュニケーションは大事にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修やその他の研修に参加し、リーダー中心に介護指導を行っている。研修で学んだ事の報告、話し合いをしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設交流会に参加している。地域グループ会議(垂水区内グループホーム連絡会参加)にも参加し良い面を取り入れたサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に声掛けをし不安を取り除く姿勢で向き合いながら納得できるまで話しをしている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や要望を取り入れ、職員間で話し合いサービスを優先している。利用者の状態を常にご家族と相談、対応に努めている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族の希望に添えるよう支援している。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員に対しても、なんでも話し合えるような関係づくり、心配事、不安などを取り除くためにご家族と連絡をとり問題解決に取り組んでいる。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いが尊重し、充実して生活が送れるようその都度相談し、理解を得ながら関係を築いている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の来訪、昔の生活等を聴いて回想して頂いている。	今まで診察を受けておられたかかりつけ医と利用者との関係が途切れないように、相談して往診に来てもらえるようにされている。友人知人の訪問を歓迎し、これまでの生活や人とのつながりが途切れないような支援を行っている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他のフロアへの行き来をし合同レクリエーションを楽しまれている。毎朝、一階に集まり一緒にラジオ体操している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もハガキや電話で近況を知らせてくださっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意思を尊重し、利用者との関わりの中から要望を汲み取る。何をする時でもご本人の思いを尊重し把握しながら援助を行っている。	利用者の日々の身体状況の観察や生活の中での些細なことも見逃さないようにしている。本人の意思や希望をくみ取り、言葉にできないことも心身の状況や日ごろの状況により判断し、最善の方法で利用者の思いに沿うように支援している。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族と話をして情報提供を頂いている。訪室や夜間帯での会話からでも情報を得ている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に生活するにあたり心身状態等を総合的に把握している。掃除や食器洗い、入浴時の行動、言動等を観察し把握する。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々に生活、関係者等の意見を総合的にとらえ、相談し、作成している。必要に応じてご家族と職員で話し合っている。	利用者が思うような日々の暮らしができるように関係者がそれぞれの立場や見方により、意見やアイデアを出し合い、より良い介護計画ができるように、モニタリングや家族からの意見反映が重要であるが、その記録が不足しているため、話し合いの記録が確認できなかった。	より良い介護計画を作成するために、関係者それぞれの意見を総合することが重要である。担当者の集まる会議の記録や関わっている職員からの意見収集の記録がほしい。家族との話についても記録をとり、ケア、計画に活かしてほしい。
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録や生活日誌、アセスメントによって情報を共有している。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お誕生月には音楽療法の時に祝い、生活に必要な備品、必需品等の提供している。家族の方と外出も楽しんで頂けるようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる散歩や朗読、散髪、自治会への行事参加。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を引き続き利用されている等、ご家族の希望を大切にしている。必要に応じ24時間対応の医療を受けられる体制をとっている。	入居前からかかりつけだった医師とは、できるだけ引き続き受診できるように配慮している。やむを得ず受診できない場合には、本人家族と十分話をしたうえで、近所の医師を紹介する。また、可能な限り家族が受診の付添ができない場合にも受診支援を行っている。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医と看護師、職員、家族が常に同じ情報を共有し医療面を支援している。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーの情報により安心して過ごせるよう努めている。お見舞い時には担当看護師に状況を聞いている。	入院時には、生活の様子などについて、情報提供を行っている。入院中には、看護師を中心に「お見舞い」しており、退院の時期が決まると、看護師と共に退院後の生活について担当者会議に出席し、より良い生活に向けて医療関係者と事業所職員と連携している。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設においての理念が、「最後の住居」であるように職員はターミナルケアを意識して共有している。24時間対応による医療の体制も整えている。	管理者はじめ職員は、看取りをする体制であることは理解しているが、事業所の終末期に向けた指針については文書化されていない。職員もその内容については十分理解しているので、文書化への今後の取り組みに期待したい。	利用者の重度化や終末期に向けた職員への説明やその思いを共有することは重要なことであり、医療機関、主治医との協働が非常に重要になってくる。関係者で話し合い、事業所の指針を文書化して、共有し看取りのケアに活かしてほしい。
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は常に周知マニュアルも作成している。状態の悪い利用者においては申し送り時に看護師より指示を受けている。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定した避難訓練、消火訓練を行い、又、夜間を想定し、通報、消化・散水の訓練も行っている。	年2回の避難・消火訓練を実施している。日中と夜間想定での訓練もされており、全職員にもその重要性は伝わっている。今後は近隣の方々にも訓練に参加していただき災害時に備えてほしい。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを尊重し、その人、その人に合った言葉掛けや対応に配慮しプライバシーは厳守している。	個々の人権の尊重とプライバシーの確保についての重要性は認識しているが、昨年11月に主任が参加した研修があり、排泄時、入浴時、呼び名についての配慮などについて学んだが、定期的な職員に対する研修の計画・記録は確認できなかった。	個々の利用者の人格を尊重し、生活のいろいろな場面でのプライバシーの確保についての全職員での定期的な勉強会を実施してほしい。新旧の職員が毎年こころ新たに確認し、より良いサービス提供に向けて取り組んでほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常着の選択は本人が好きなものを選んで着用している。何時でも利用者自身で出来ることや選択は本人の思いに添うよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた生活をしていただいている。体力維持を図るため安静時間も作り、その人その人に合った役割分担。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に2回の理容師の来所、好きな色の口紅やネイルを楽しんでいる。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは利用者と共にしている。それぞれに合った役割で毎日している。食事が楽しくなるよう職員も一緒に食べている。	食事は給食であるが、事業所で採れた豆を使って豆ご飯にしたり、日曜日にはレクリエーションを兼ねてホットケーキをつくるなどの工夫で食の楽しみにつなげている。また入居者の状態に合わせて下膳などの片付けもしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日記録し、キザミ食、ミキサー食、トロミなどを使用してその人に合った物を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼晩と口腔ケアを実施。口臭や舌苔に注意している。口腔ケア研修も行っている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合ったトイレ誘導、排泄パターン、能力に応じてリハビリパンツ、布パンツ、オムツを使用している。	個々の入居者に応じた排泄パターンや入居者からのサインを職員が把握し、出来る限りトイレでの排泄を大切にしながら支援している。こまめなトイレ誘導によって薄型のオムツに変更できたケースもある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量には十分に注意している。排泄表で便秘気味の方に対してはその都度看護師と相談している。腹圧やマッサージもしている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意思決定及び必要に応じて入浴して頂く。入浴順においても不公平のないよう順番にも配慮している。	日曜日以外は、基本的に日中に1日おきの入浴である。一人ひとりがリラックスできるような介護を行っている。入浴順を気にされる入居者が多いため、不公平感のないように順番にも配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の意思による就寝時間をとっている。21時頃に入眠の声掛けを行い、個々の意思も尊重しながらその日その時の状態により決めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や用法、副作用等は看護師から説明を受けている。内容の変更の際には随時ファイルに内容を更新している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事や、皆で助け合って出来る事はして頂いている。 おしぼり巻き、新聞たたみ、食器洗い、洗濯、他階への配達等。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や外出、散歩(ボランティアの手を借りながら)を楽しまれている。	入居者の重度化に伴い、以前より外出が難しくなってきたが、ボランティアとともに近所の公園まで散歩に出掛ける利用者がおられる。また広い玄関先で外気浴を行うこともあるが、日常的な外出支援がより広がるように更なる工夫に期待したい。	全ての入居者に対する外出支援は難しくとも、利用者の希望に沿って、ボランティアや家族の協力を得ながら、外出の機会を増やされることを期待したい。



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出の際には支援をしているが、あまり興味をしめさない。お金を使うことを極力しない。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務室にて電話されている。 手紙は職員が手伝っている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節を表現している飾り、行事ごとの写真を玄関やホールに飾っている。	広いホール内に、食事をする場所とは別にくつろぐスペースがある。玄関や廊下には季節の花が生けてあり、季節を感じられる小物類で彩られている。日当たり、風通しもよく、居心地のよい空間作りに配慮されている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルスペース、ソファースペースは利用者が希望時間、希望場所に居られるようにしている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた装飾品、鏡台、ウォッシュレットなど持ち込まれている。	なじみの物の持ち込みが可能で、大きなタンス、仏壇、電化製品なども持ち込まれている。家族写真や受診の日程カレンダーなども室内に掲示され、入居者の好みと使いやすさに配慮した居室となっている。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の認知の自立度に応じ対応している。		